

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年5月23日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4679500092
法人名	社会福祉法人 ともお会
事業所名	さくら園グループホーム
所在地	鹿児島県大島郡知名町阿木名1949番地 (電話) 0997-93-5151
自己評価作成日	平成29年3月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成29年4月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 同敷地内に特養、デイサービスセンターが併設され、慰問見学、島歌や誕生会などいつでも交流が図られ、合同行事の夏祭り、敬老会、地域行事への参加、見学など家族や地域の方たちと楽しく交流ができています。
- グループホームの周りは畑に囲まれ、サトウキビ、ジャガイモの植え付けや収穫などの農作業を見ながら昔を思い出し話が弾み、ホール内では体ほぐしやレクリエーション、テレビ観賞を楽しまれたり個々の生活に合わせゆったり過ごされています。
- グループホームの庭先には四季折々の花が咲き、桜やみかんの木が植えてあり金柑の収穫を楽しんだり、桜の花が咲く頃には園庭で花見をしながらお茶会を楽しまれている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは利用者にミカンの果実がついている枝を切って、玄関先でのミニミカン狩りを行ったり、シャボン玉遊びをして楽しんでいる。
- ・職員は日々の介護の中で身体拘束をしないケアを職員で話し合っ、知恵やアイデアを出し合っている。
- ・居室はベットや洗面所・トイレなどが備え付けられており、プライバシーの確保や冬季の感染時期も安心して過ごせるよう工夫されている。夜間時はベットを移動して転倒の危険なく排泄の自立支援に繋がるよう工夫している。
- ・敬老会の日に利用者の家族から贈られた洋服を着て写真に撮り、家族に送っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所全体の理念、グループホーム独自の理念をホールに掲示してあり職員はケア会等で理念を朗読し日常業務で実践している	事業所の理念をホールに掲示し、会議前にみんなで理念を唱和し共有している。ケアに行き詰まった時など理念に基づいた支援を提供している。利用者のできる部分を見守り維持していく支援に心を留めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	特養との合同行事（夏祭り、敬老会）には地域住民が参加できるように宣伝を行っている。又地域の行事やイベントに積極的に参加し、買い物や慰問見学などで地域住民と交流が図られている。	町民体育大会や保育所の運動会に職員と出かけて応援したり、地域の敬老会への参加や園児達と楽しく触れ合ったりしている。友達が面会に来てお茶を楽しんだり、老人会や婦人会のメンバーが紙芝居や島唄のボランティアで訪問したりしている。地域住民からも島バナナや野菜の差し入れなどがある。町の作品展示会に利用者職員との合同作品を出展したりして事業所と地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	研修会や勉強会で認知症について知識を高め地域の方から相談をうけた場合認知症の理解や支援方法等わかりやすくアドバイスできるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進委員会においては、利用者の状況、事業経過活動等を報告し委員の皆さんが意見や要望を出せる雰囲気づくりに勤めている。又意見、要望については全職員で検討し改善に努めている</p>	<p>運営推進会議は年に4回併設の事業所と合同で実施している。事業報告や現況報告を行い、意見交換をしている。誕生会を1棟2棟合同で行うなどの提案や慰問の希望・集落行事の情報も寄せられている。出された意見や提案は運営に反映できるよう努めている。会議の回数なども検討している。</p>	<p>運営推進会議は年6回以上開催することとなっているので、検討されるよう望みます。</p>
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>町の担当者とは電話での相談や更新や認定申請時を通じ連携に努めている。又運営推進会議に参加していただきご指導を仰ぐようにしている。</p>	<p>利用者の更新の手続きの時に役場へ行き事業所の実情や利用者の支援など細かい所まで相談している。町主催の研修会に職員も数名参加している。町担当者からも看取りや入所の問い合わせがあり、協力できる部分は対応するなど連携を密にしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>施設内研修や職員会で勉強会をし身体拘束の知識を深め、職員は常に介助の方法を話し合いながら職員間の連携を密に身体拘束をしないケアを心がけている</p>	<p>マニュアルを基に年に2回、全体会議で研修を行っている。ケア会議でも取り上げて、職員は常に業務をしながら疑問に思った事を会議で投げかけている。日中の玄関の施錠はせずに、職員の連携で外出を好む利用者の付き添いやドライブと一緒に外出するなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	鹿児島県や包括支援センターからの資料等にて職員会で勉強会を行い日常的にその防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見人制度については、職員全体会で研修会に参加した職員から報告を受けないように共有するように努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書や重要事項説明書に添って該当箇所を示しながら口頭で説明を行い、利用者や家族の方に不明な点が残らないように十分な説明を行うことで理解、納得してもらうようにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置したり、居室担当職員を決めて利用者や家族が意見や要望等職員に気軽に話せるように努めている。	利用者・家族・職員との3者交流会を行い、要望や意見などを聞く場を作っている。家族から利用者の介護度の事で問い合わせがあったり、「食事ができて元気でみんなと仲良く過ごせていたらそれでいい」との意見も寄せられており、出された意見や提案は運営に反映するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月の代表者会や職員会、ケア検討会を実施し職員からの意見や提案は運営に反映できるように努めている。</p>	<p>毎月の職員会やケア会議などで職員からの提案や意見を聞いている。褥瘡の改善や職員の腰痛の改善・むせ込みの予防に調理内容の変更をするなど、職員の意見や提案が活かされ運営に反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>社会福祉制度、介護保険制度、社会情勢の変化に対応して諸規定の整備を図るとともに安心して働ける環境づくりに努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>県、郡の協議会に加入して各研修会に参加するように努めている。又島内の研修会には夜勤者を除いて全員研修会に参加するように努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他施設の職員や利用者との交流ができるように、お互いの施設を訪問して、サービスの向上を目指している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の生活暦、趣味、不安や困っていること、要望等をきかせていただき安心して生活が出来るよう良い関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の都合に合わせ、話し合いの機会を設け、心配事や困っていること、要望等に耳を傾け信頼関係が築ける関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>担当ケアマネジャー、管理者、計画作成者で検討し、本人、家族の了解を得た上で他のサービスの利用を含めた対応が出来るようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>個々の身体能力に合わせた仕事を一緒に行うことで、お互いを気づかってもらうこともあり生活を共に支え合う関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>行事関係への声掛け参加や通院への付き添い、状態変化等事あるごとに連絡、相談を行い家族とともに本人を支えていけるように協力を頂いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>字めぐりや友人との面会が出来るように野外活動を実施したり、友人や知人との面会時は本人の居室にてゆっくりくつろげるようお茶菓子を準備し楽しく談話、談笑してもらっている</p>	<p>桜の花見等のドライブの帰りに利用者の自宅に立ち寄ったり、馴染みの美容室に職員と一緒に出かけたり、家族からの電話で会話を楽しんだりしている。親族や近所の人が面会に来たりしている。母体施設のデイサービスに職員と一緒に行き友人と楽しく交流したり、家族がお盆や正月に自宅に連れて帰ったりして関係継続の支援を行っている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>性格等を把握し一緒に楽しみかわりあえるように支援し、トラブルや訴えがあれば随時席の変更等行っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院時はお見舞いに行き、他施設へ行こうされた方とは面会や交流を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で声をかけ、行動や言動、表情などから本人の思いを推測し、困難な場合は家族と話し合い本人の思いに近づけるように取り組んでいる。	お風呂に入っている時や日常的な会話の時に、表情や動作などから把握できた事を個々のケア記録に記入して職員で把握している。困難な場合は、職員で情報を話し合い家族からの情報も参考に本人中心に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族からの聞き取り、さらにケアマネジャーからの情報を収集し日々の生活に活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア計画に基づき確認しながら心身の状態の把握（行動、言葉、表情）に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケア会議や状態変化時に検討し、個々のケア記録を見直し本人らしく暮らせる為の介護計画の作成を行っている	介護計画は本人や家族の意見や要望を聞き、主治医や職員・関連機関からの意見を考慮して作成している。モニタリングは6ヶ月毎に行っている。心身の状況に合わせて計画を変更している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々のケア記録を個別化し常に職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者や家族の要望や希望に応じて専門医への通院や入院中の支援、併設されているデイサービスセンターの慰問見学に出かけ交流を図っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>慰問（保育園児、老連、婦人会、各種団体等）を楽しませ、消防署立会いの訓練に参加し安全に暮らせるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>専門的な診療は専門医療機関を、風邪等の日常的な診療にはホーム協力医を受診するなど状況に合わせた医療機関の受診支援している</p>	<p>受診は、本人及び家族等の希望のかかりつけ医を支援している。1週間に1回は協力医の受診があり、職員が交代で付き添う場合が多い。家族に受診結果を報告している。眼科や皮膚科などの専門的な診療は専門医療機関を受診し、急変時の往診などは適切な医療を受けられるように連携ができています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医院の看護師、特養、デイサービスセンターの看護職員と連携をとり相談しながら利用者が適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が面会に行き、入浴時の洗濯物を受け取ったり届けたり、その都度情報交に努め早期退院への話し合いや退院時のサマリー等で情報を交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のあり方について、グループホームには看護職員がいないことを伝え、本人や家族の意向を聞き、方針を共有し安心した生活が出来るように取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針については、入居時に説明している。ホームとして医療行為を要さない自然な終末期ケアを支援した事例がある。経口摂取ができなくなった時は、主治医や家族の意向を聞きながら、方針を共有し支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	病院の看護師や、特養、デイサービスの看護職員の指示、助言、訓練を行ったり急変時対応マニュアルを職員会で勉強し見につけるようにしている。		

目 己 評 価	外 部 評 価	項 目	外部評価	
			自己評価 実施状況	実施状況 次のステップに向けて 期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>利用者とともに、年2回避難訓練を行い、利用者の安全な避難方法を確認したり、隣接の特養とも連携を蜜にしている</p>	<p>災害避難訓練を年2回行っている。母体施設の職員や消防署も参加して夜間想定で昼間に実施している。火災避難訓練の時は母体施設が避難場所となっている。スプリンクラーや火災報知設備も設置している。備蓄として水やレトルト食品・インスタントラーメンなどを最低3日分用意し、オムツや暖を取る毛布なども準備している。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>島言葉など個々にあった声かけを行い、排泄誘導時などは声のトーンを抑える配慮を行い、プライバシーの確保に努めている</p>	<p>人格の尊重とプライバシーの確保のマニュアルを基に研修を行っている。母体施設と一緒の全体会でも施設長から講義があり、管理者は職員の不適切な言動はその都度注意している。トイレの誘導や失禁時の対応など、常に配慮した声かけで支援している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の希望時は、外出や散歩、ドライブなど行っている</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペース、体調、気持ちにあわせて過ごしていただけるようコミュニケーションを図りながら支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>外出や行事等で一緒に好みの洋服を選んだり、化粧したりおしゃれが出来るよう支援している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>野菜の下ごしらえ、配膳、片付け等個々の力や役割に合わせて職員と一緒にしている。 好きな食べ物を聞いて食材の買い物時一緒に購入している。</p>	<p>利用者個々の力量を活かしてお盆拭きやネギ・ニラ等の野菜の繕いなどを職員と一緒に会話しながら行っている。園庭の畑に植えてあるニガウリやネギ等の野菜に水や米のとぎ汁をかけたり、職員と一緒に収穫を楽しんだりしている。利用者に食材を見せて調理方法を教えてもらったりしている。年1回のバイキングの時に嗜好調査を行い利用者の好きな食事を提供している。園庭でのお茶やおやつ・カレーライス等や家族と一緒にの夕食を楽しんだりしている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士の献立により、バランスの良い食事が提供でき、必要時状況に応じて、咀嚼、嚥下等の状態にあわせた食事形態を提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後声かけの実施、義歯洗浄の介助を行い、一人ひとり力に応じた口腔ケアの支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄は出来るだけトイレで行えるように、一人ひとりの排泄パターンにあわせて声かけ誘導を行っている。	利用者への排泄支援として、見守りや定期的に声をかけたりして、トイレでの排泄に取り組んでいる。夜間帯はベットを斜めにしてトイレに近づけて自力で排泄行為ができるような工夫をして排泄の自立支援に繋げている。トイレドアに鈴の取り付けなど工夫し、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、便秘があれば医師に相談し、緩下剤の服用を行っている。又散歩やヨーグルトなど運動や食材にて便秘予防につとめている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に入浴日を決めているが、個々の心身の状態にあわせながら希望に応じて対応している。	夏場は週3回、他の季節は週2回入浴が楽しめる様支援している。状況に応じて半身浴や全身浴を行っており職員との会話も楽しみながらゆったりと浴槽に浸かっている。入浴を嫌がる利用者の対応で時間や職員を変更したりしている。冬場は皮膚トラブル予防で保湿剤などを使用したり、ミカンの皮を浴槽に浮かべて香り等を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中は居室やホールのソファで休息をとっていただき、夜間は居室の室温や寝具の状態、入眠状況の確認を行い、安心して気持ちよく眠れるように支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個人の力に応じた服薬支援を行い、症状の変化時には受診又は回診時に医師に上申し指示を仰ぎ服薬支援を行っている</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりの能力に応じた役割、楽しみごとへの取り組みなどの支援（野菜のつくろい、レクリエーション、お菓子作り）散歩や買い物に行くなどしている</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>施設周りの散歩、職員との買い物、園外活動、家族によるドライブ、又地域の色々なイベントには家族や地域の人々に協力を頂きながら参加し外出の機会を増やしている。</p>	<p>日常的には園庭の散歩を楽しんだり、特別養護老人ホームのデイサービス利用者との交流や買い物などに職員と一緒に出かけ、日常的な外出は頻繁に行っている。園外活動で遠出してドライブも楽しんでいる。家族との外食にも出かけている。</p>	

目 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族の希望に応じている。利用者の能力に応じ、お金の所持、使用してもらい支援している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	島外への家族へは電話をかける機会を作っている。かかってきた電話もすぐに本人に取り次ぐようにしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールには季節感を感じられるよう飾りつけを行っている。温度、湿度、は温湿度計で確認しながら調整し共有の空間は常に整理整頓を行い利用者がゆったり過ごせるように勤めている。	玄関やホールは明るく温度・湿度が調整されている。玄関には季節の花が活けてあり、壁にはこいのぼりの貼り絵や写真などが飾られている。利用者がソラマメの皮むきをして会話を楽しんだり、ソファで利用者数人がテレビを観たり、ゆったりとした雰囲気の中で居心地よく過ごせるような工夫がされている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファや畳のコーナーがあり思い思いの場所で自由に過ごせるように工夫している</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人や家族と話し合い、使い慣れた寝具、タンス、本人が大切なものなど居室に取り入れ、居心地よく過ごせるように工夫している「</p>	<p>居室はベッドや洗面台・トイレが設置されている。本人の使い慣れた寝具やタンス・テレビ・家族の写真等を持ち込み、仏壇に花を飾り、手を合わせている。居室から園庭への出入りも自由にでき、居心地よく生活ができるように工夫されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホール。廊下、トイレ、浴室に手すりを設置、各居室には洗面台、タンス、トイレがありその人の力に応じた行動を見守り安全に過ごせるように工夫している。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない